

早期発見・早期対応に主眼を置いて取り組んできた。何事も小さい芽のうちに摘み取ることを全教員が意識できるようになってきた。

の充実を図っていききたい。校長室通信で包括的生徒指導についての発信（研修）を行なってきたことから、今後も続けていききたい。

4 健康な体の育成（教育行政執行方針重点3）

- ◎生涯にわたって、豊かで充実した社会生活を送るための土台となる健康な体を育む
- ・健康の維持・体力の向上に関する指導の重点化
- ・情報モラル教育の充実
- ・食育の充実

推進事項とその成果

課題と方策

- 1 生活リズムチェックを行い、何が課題であるかを洗い出してきた。「基本的生活習慣の確立」が大きな課題であることが分かった。
- 2 体育の授業では、補強運動を多く取り入れ、体の機能（力強さやしなやかさなど）を高める授業ができていく。
- 3 食育や性教育、LGBTQ+などについて、外部の専門家から学ぶ機会が設定されていない。

- ・本校における課題は「基本的生活習慣の確立である。保健だよりを通して指導しているが、学活なども活用して指導する必要がある。
- ・体育の授業では継続して取り組んでいきたい。日常的な運動週間の確立については、効果的な指導を見つけない。
- ・現代的な諸問題であるこれらの分野は、専門家から学ぶ機会が必要であると考えている。

5 ふるさと・キャリア教育の推進（教育行政執行方針重点4）

- ◎地域への理解と愛着を深めるとともに、自分の将来について主体的に考え、積極的に地域とかかわろうとする児童生徒を育てる
- ・ふるさとの自然、産業、文化、人に関わる学びや体験の継続
- ・キャリア教育の充実

推進事項とその成果

課題と方策

- 1 厚岸町の「人・もの・コト」に数多く触れるために体験的な学習の充実を図ってきた。1学年では「なぜ、コンキリエに観光客が集まってくるのか」という疑問をもった生徒が観光客にインタビューをすることで、厚岸町に誇りをもったり、新たな気づきがあったりと学びが深まる場面があった。

- ・学んだ結果、将来、厚岸町のために何ができるかなど発展的な学習にたどり着いていない。町議会議員などと、まちづくりについて協議する時間の設定など、まちづくりに携わる方との交流ができたらと考えている。

6 学びの保障（教育行政執行方針重点5）

- ◎児童生徒一人一人が、心しく生き生きと学ぶことができる支援及び環境整備
- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・ICTを活用した教育支援
- ・職員研修の充実
- ・特別支援教育の充実
- ・防災教育の充実
- ・地元高校への支援
- ・働き方改革

推進事項とその成果

課題と方策

- 1 特別支援学級在籍生徒が、学年に入って授業を受けるときには、必ずサポート教員を配置している。サポートの配置については、生徒の状況などについて職員会議などの場で情報共有を行い、適切な配置に努めてきた。
- 2 防災教育については、今年度も訓練と学習を組み合わせることで防災意識を高めることができた。

- ・指導記録を残しているが、どの程度サポートが行き届いて、どのような効果があったことかは検証するまでには至っていない。しかし、可能な（人手がある）限り続けていきたいと考えている。
- ・特別支援教育については、自立活動を中心とした個別支援と協働的な学習を組み合わせることでインクルーシブ教育に限りなく近づけていきたいと考えている。
- ・小学校との連携や地域との連携が考えられることなので、今後CSなども活用しながら取組が進められればと考えている。

<p>3 在校時間から正規の勤務時間を減じた時間の削減を意識してきた。終業時刻が早まってきているが、一部の教員は改善されていない状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の時短を図る上で最も重要視したいことは、校内業務のスリム化を図ることであると考えている。今後はコアチームを結成し、具体的な業務のスリム化に向けて働き方改革を進めていきたい。
<p>4 公開研究会に参加するなどコロナ禍においても合同方式での研修の機会が増えてきたので、積極的に参加できるような環境づくりに努めてきた。また、オンライン研修の機会も増えたので、気軽に研修へ参加できるように促してきた。研修への参加は増えたように感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度より、本格的に研修履歴を活用した人材育成が始ることを受けて、面談の機会などを活用して研修参加を促していきたい。また、可能な限り、研究会などへの参加ができるとよいと考えている。また、来年度は学教研厚岸大会があるので、積極的にいかわり授業力等の向上に結び付けたい。

5 真龍中学校

1 学校経営（今年度の重点）	
重点事項	推進事項及びその成果と課題
<p>1 「確かな学力」を確実に育成する教育活動の充実</p> <p>2 「豊かな心」を有し内面に根ざした道徳的実践力を自ら育み続ける生徒の育成</p> <p>3 「健康な体」を育むために、自己の健康に留意し主体的に体力向上を目指す生徒の育成</p> <p>4 ふるさと教育、キャリア教育の積極的な推進</p> <p>5 生徒一人一人が生き生きと学ぶ学校の創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動で、5つの重点に取組ことにより、目指す生徒像に迫ることができた。 ・「確かな学力」の育成では、3年計画のまとめの都市である校内研修を要として全ての教科で「真龍中スタンダード」を位置づけた授業改善につなげることができた。 ・生徒の自己肯定感を向上させることを目的として生徒会が毎月目標を設定した。生徒会書記局と校長が面談し、月別目標の達成状況の反省を確実にし、次の目標のステップアップにつなげた。 ・学力向上に向けた授業改善、放課後学習の持ち方等の見直しを図っているが、生徒の意識改革にはつながらない部分もあり、次年度の課題となった。
2 確かな学力の育成（教育行政執行方針重点1） ◎基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けさせるとともに、これらを活用して新たな課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む ・「個別最適な学び」の推進 ・「協働的な学び」の充実 ・ICTを活用した学びの充実と授業改善	
推進事項とその成果	課題と方策
<p>1 ICTの校内研修の推進により、全ての教科におけるタブレット端末等の効果的に活用した授業の研修を推進することができた。</p> <p>2 コロナ禍における自宅待機期間のオンライン授業や家庭への持ち帰り等の体制を整備することにより、全ての生徒への「学びの補償」と「個別最適な学び」につな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果の分析から、授業改善の継続や家庭学習等の学習習慣の改善により基礎的・基本的な知識及び技能の育成につなげる必要がある。 ・ICTの更なる効果的な活用について、情報収集や研修を継続することが必要である。

げることができた。

3 豊かな心の育成（教育行政執行方針重点2）
 ◎夢や目標に向かって主体的に考え判断し行動するたくましい心と、人や社会と協働して共に生きるしなやかな心を育む
 ・特別の教科「道徳」の充実
 ・直接的・間接的な体験活動による感動や達成感の共有
 ・生徒指導の充実

推進事項とその成果

課題と方策

- | | |
|---|--|
| <p>1 道徳推進教師による指導案の提示と授業実践と別葉の作成により、学校生活全体での道徳教育を推進することができた。</p> | <p>・道徳教育推進教師を中心とした研修と実践を重ねるとともに、評価方法については改善が必要である。</p> |
| <p>2 コロナ禍で縮小したり、見直した部分もあるが、真中祭や宿泊行事などは様々な教育活動の生徒の反省からは充実した様子や達成感を感じていることが伺えた。</p> | <p>・コロナ禍で難しい部分もあったが、道徳の授業公開等、保護者の理解と参画できる工夫が必要である。</p> |

4 健康な体の育成（教育行政執行方針重点3）
 ◎生涯にわたって、豊かで充実した社会生活を送るための土台となる健康な体を育む
 ・健康の維持・体力の向上に関する指導の重点化
 ・情報モラル教育の充実
 ・食育の充実

推進事項とその成果

課題と方策

- | | |
|---|---|
| <p>1 各種調査や生活リズムチェック等の結果の分析から、教職員全体で共有し、取組む体制ができている。</p> | <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、生活習慣が崩れた生徒も少なくない。引き続き、家庭と連携して、基本的な生活習慣の改善に取り組んでいく必要がある。</p> |
| <p>2 体力テストでは、全学年において全国平均を上回る種目が多かった。</p> | <p>・校区が広いことから、保護者の送迎により登下校している生徒も多く、徒歩通学の励行に努める。</p> |
| <p>3 給食におけるアレルギーの確認を毎朝、打合せ時に行い、全体で確認する体制の確立がされている。</p> | <p>・アレルギー体質を持つ生徒も多く、全教職員で情報を共有し、引き続き事故防止に努める。</p> |

5 ふるさと・キャリア教育の推進（教育行政執行方針重点4）
 ◎地域への理解と愛情を深めるとともに、自分の将来について主体的に考え、積極的に地域とかわるうとする児童生徒を育む
 ・ふるさとの自然、歴史、文化、人に慣れる学びや体験の継続
 ・キャリア教育の充実

推進事項とその成果

課題と方策

- | | |
|---|---|
| <p>1 厚岸町内での職場体験学習の実施や地元企業交流会の開催により、働く意義を考える機会になった。また、厚岸町の魅力を一層実感することができた。</p> | <p>・地域の人材を活用し、将来を見据えたキャリア教育の全体計画の見直しと小中連携したキャリアパスポートの活用について、検討することが必要である。</p> |
| <p>2 地元高校の厚岸翔洋高等学校の出前授業により、厚岸町の理解を深めるきっかけとなった。</p> | |

6 学びの保障（教育行政執行方針重点5）
 ◎児童生徒一人一人が、楽しく生き生きと学ぶことができる支援及び環境整備
 ・新型コロナウイルス感染症対策
 ・ICTを活用した教育支援
 ・職員研修の充実
 ・特別支援教育の充実
 ・防災教育の充実
 ・地元高校への支援
 ・働き方改革

推進事項とその成果	課題と方策
<p>1 新型コロナ感染ウイルス感染症対策は各種通知を受け、教職員で情報共有し、感染予防に努めることができた。</p> <p>2 各授業におけるタブレット端末の効果的な活用の研修を推進することができた。また、家庭への持ち帰り等の環境を整備することができた。</p> <p>3 特別支援教育コーディネーターを中心とした生徒理解交流等での情報共有により、教職員全体で特別支援学級在籍生徒の教育支援を進めることができた。</p> <p>4 早い段階で、来年度本校に入学する予定の児童・保護者を対象として、説明会と教育相談を実施することができた。中学校卒業後の進路を考えての中学校での在籍を考える機会となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 常に状況が変わる新型コロナウイルス感染症の予防を取り入れた対策の見直しを継続する。 全教職員が特別支援教育に関して、より深く理解して、個のニーズにきめ細かく対応できる体制を整える必要がある。 通常学級に在籍している支援を必要としている生徒への支援のあり方を確認していく必要がある。 防災教育の充実や避難訓練など津波対策の継続させることが大切である。 時間外勤務の月45時間を超える職員が多くいる月もあり、引き続き業務内容の見直しやタブレット端末を活用した業務の効率化や合理化を図る。

6 太田中学校

1 学校経営（今年度の重点）	
重点事項	推進事項及びその成果と課題
<p>1 「知・徳・体」のバランスを取れた育成</p> <p>2 生徒一人ひとりの個性を生かす「特別支援体制の整備」</p> <p>太田中ならではの強みを生かした系統的で連続性のある指導実践を行ない、生徒の良さ、可能性を最大限に引き出し、これからの社会で生きる実践的な力（知・徳・体）をバランスよく育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本来の強みを生かし、生徒一人ひとりの学習進度に応じた授業を推進できた。 家庭における自主的な学習習慣の定着が課題である。 生徒一人ひとりに応じた教育支援体制の整備により、それぞれの活躍ができる場が増えた。それらの活動を生徒の自発的行動へとつなげていくことが課題である。 保護者の学校教育への参画機会をどのように計画していくかが課題である。
2 新たな学力の育成（教育行政執行方針重点1）	
<p>◎系統的・基本的な知識及び技能を確実な身に付けさせるとともに、これらを活用して新たな課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> 「個別最適な学び」の推進 「協働的な学び」の充実 I・C・Tを活用した学習の充実と授業改善 	
推進事項とその成果	課題と方策
<p>1 研究テーマ「生徒が集中する」授業・活動の想像に基づいて校内授業研を行い、全教職員の授業公開により、生徒が「集中して」学習に取り組む授業のあり方について、その成果を共有することができた。</p> <p>2 教育相談を2回実施し、各自の学習の悩み解決に努めた。そのことにより学習への</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「集中した」結果をどのように「学び」の質の向上につなげていくことができるかが課題である。 自主的な家庭学習が習慣化されていない。家庭学習の必要性和リンクさせながら生

<p>苦手意識を克服し、授業に向う意欲が高まる生徒が増加した。</p> <p>3 タブレット機器を有効に活用しながら、授業改善を行うことができた。</p>	<p>徒の意識を変容させる取組を検討中である。</p>
---	-----------------------------

3 豊かな心の育成（教育行政執行方針重点2）
 ◎夢や目標に向かって主体的に考え判断し行動するたくましい心と、人や社会と協働して共に生きるしなやかな心を育む
 ・特別の教科「道徳」の充実
 ・直接的・間接的な体験活動による感動や達成感の共有
 ・生徒指導の充実

推進事項とその成果	課題と方策
<p>1 道徳教育推進教師を中心に、全教員による道徳授業を行い、多面多角的な価値に触れ、思考を深めることができた。</p>	<p>・少人数のため、多様な価値観に触れる機会が少ない。解決のためにタブレット端末を活用したオンライン交流等を検討していく。</p>
<p>2 「ほっと」等を活用し、生徒指導の充実を図った。</p>	<p>・「ほっと」等の調査より、成長による変化を見取りながら指導を継続していく。</p>
<p>3 SCを活用し、望ましい人間関係づくりの充実を図った。</p>	<p>・SCをより有効に活用していくため、SCによる授業を早い時期に計画する。</p>

4 健康な体の育成（教育行政執行方針重点3）
 ◎生涯にわたって、豊かで充実した社会生活を送るための土台となる健康な体を育む
 ・健康の維持・体力の向上に関する指導の重点化
 ・情報モラル教育の充実
 ・食育の充実

推進事項とその成果	課題と方策
<p>1 全国体力・運動能力等調査結果を踏まえ、運動の楽しさを伝えながら全校で体を動かす生徒会企画を行った。</p>	<p>・部活所属生徒が減少しているため、昼休みや放課後を活用して全校生徒が楽しみながら体を動かせるよう、生徒会活動を中心に生徒主導の機会を増やしていく。</p>
<p>2 養護教諭を中心に給食後の毎日の「歯磨き体操」と、6月と11月の歯科保健指導を実施し、歯の健康への意識を高めることができた。</p>	<p>・生徒の情報端末機器の所持及び使用実態を把握し、参観日等を活用した保護者参加型の安全教室を実施し、情報端末機器に関する「家庭のルールづくり」を促進する必要がある。</p>

5 ふるさと・キャリア教育の推進（教育行政執行方針重点4）
 ◎地域への理解と関心を深めるとともに、自分の将来について主体的に考え、積極的に地域とかがわろうとする児童生徒を育む
 ・ふるさとの自然、歴史、文化、人に関わる学びや体験の継続
 ・キャリア教育の充実

推進事項とその成果	課題と方策
<p>1 職業見学、職業体験学習、施設訪問等を段階的に実施し、厚岸の産業について学び、生徒の職業観の育成を図った。</p>	<p>・地元企業・地元高校との積極的な活用を今後とも継続する。</p>
<p>2 総合的な学習の時間発表会「屯田タイム」で、1、2年生は地元企業見学・職場体験を通して得た地元企業の魅力等について発表した。 3年生は今までの学習を振り返り自己の将来のビジョン等について発表した。</p>	<p>・ふるさと・キャリア教育の充実を図るために ①3年間の活動に流れ・継続性をもたせる。 ②課題解決学習を基盤に生徒個人と学年としての学びを構築する。 ③保護者・地域の人材を活用する等の見直しを行う。</p>

- ・小中学校9年間を見据えたキャリア教育の編成を行う。

6 学びの保障（教育行政執行方針重点5）
◎児童生徒一人一人が、等しく生き生きと学ぶことができる支援及び環境整備

- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・ICTを活用した教育支援
- ・職員研修の充実
- ・特別支援教育の充実
- ・防災教育の充実
- ・地元高校への支援
- ・働き方改革

推進事項とその成果	課題と方策
<p>1 学習発表会において、タブレット端末を活用した学習発表を実施した。</p> <p>2 感染症対策について、全校朝会の校長講話や委員会の呼びかけを継続して行なった。学びの保障のため、オンライン授業の対応も行った。</p> <p>3 町総合防災訓練で避難所運営訓練に参加し、地域と協力した防災学習を行った。</p> <p>4 特別支援教育コーディネーターを中心に全職員による特別支援教育体制を構築し、推進することができた。支援体制の充実を図るため、職員会議等で支援生徒の実態交流を進めた。</p> <p>5 小学校との連携を密にし、特別支援児童の実態交流を進めることができた。</p> <p>6 各種団体が主催するオンライン研修に参加した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的事例の情報収集や教職員の積極的な活用実践の交流及び蓄積を進める。 ・全教職員による感染症予防教育を継続する。 ・役場危機対策係を講師とし、避難所運営ゲーム北海道版を小学校高学年や保護者地域住民と合同で実施し、防災意識を高める。 ・中学校での円滑なスタートを切るため、小学生1日登校を活用して、小学校段階からの児童の実態を見取る。

V 児童生徒の推移（過去10年間）

児童・生徒数の推移

【小学校】

(単位：人)

	厚岸小	真龍小	太田小	床潭小	高知小	片無去小	計
平成25年度	135	295	24	22	8	閉校	484
平成26年度	144	310	23	18	7	↓	502
平成27年度	142	292	22	14	6	↓	476
平成28年度	143	273	19	6	5	↓	446
平成29年度	141	262	24	閉校	5	↓	432
平成30年度	136	262	22	↓	休校	↓	420
令和元年度	118	258	23	↓	↓	↓	399
令和2年度	121	248	19	↓	↓	↓	388
令和3年度	110	237	22	↓	↓	↓	369
令和4年度	112	204	26	↓	↓	↓	342

【中学校】

(単位：人)

	厚岸中	真龍中	太田中	高知中	片無去中	計
平成25年度	109	151	20	6	閉校	286
平成26年度	84	149	13	4	↓	250
平成27年度	85	141	11	4	↓	241
平成28年度	82	148	16	4	↓	250
平成29年度	84	159	13	3	↓	259
平成30年度	71	164	13	3	↓	251
令和元年度	74	144	9	休校	↓	227
令和2年度	73	141	14	↓	↓	228
令和3年度	74	125	11	↓	↓	210
令和4年度	61	118	11	↓	↓	190

備考 調査日は、各年度の4月1日現在

VI 教育事務評価の概要

1 学校教育に関わっての推進状況について

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の予防のために、いろいろな制約を受けながら教育活動を推進していかねばならない状況の中、教育行政をはじめ教育現場においては、あらゆる場をいかしながら「学ぶこと」への確保や保障、さらには「健康・安心安全・命の尊さ」など維持するため日々努力していたことがみられ、「子どもを守り、育て、高める」教育活動を停滞させることなく進めていったことが報告書から伺うことができ、高く評価したい。

2 学校教育関係

(1) 「確かな学力の育成」について

基礎的・基本的な知識・技能の定着、また獲得した知識・技能の活用、さらに課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育むことを柱に町内の各学校が授業研修や実践を通じて、確実に児童生徒の定着を図っているように思う。特に子どもたちが主体的に目的意識や課題意識を持って学ぶ姿、互いに学び合いながら課題解決していく姿を求めながら努力していることが伺える。それらの教育実践が確実に子どもらの達成感や充実感を生み出しているように思う。このことは、各学校が一丸となって子どもたちに寄り添った授業改善の成果であり、学ぶことへの楽しさ、獲得することの喜びを伝えているに違いない。また、それぞれ個に応じた細やかな少人数指導支援体制や放課後学習など基礎学力向上、さらにはICT活用学習など各学校が継続して取り組んでいる姿も児童生徒をしっかりと支えている。これらの教育活動に高く評価するとともにこれからも「生きて働く確かな学力」向上・定着に意を注ぎ取り組みを充実させていってほしいと思う。

(2) 「豊かな心の育成」について

教科としての「道徳」では、児童生徒が道徳的課題に対して、級友たちとの対話や議論を通して、自らの考え方や見方を広め深めたり、また、自分のこととして捉えたりするなど深化向上めざす実践が継続して行われている。この積み上げがまさに「生きた道徳実践力」の向上に繋がると思う。さらなる道徳教育の充実を期待したい。

生徒指導については、児童生徒が日常の様々な営みの中で、受容的共感的風土づくりや自己肯定感を高められていくような教育的環境・配慮・指導がされているように感じる。また、昨年から続いているコロナ禍のために行動や活動などは、交流範囲が制限された影響も重なって、いじめ・不登校・集団的深夜徘徊、さらには情報通信モラルなど様々な行動変化が起きている。しかし、報告書を見る限り厚岸の教育現場では大きな問題になっていない。このことは、子どもの変化や生活を確かな目で見逃さず、子どもたちに寄り添った対応を組織的に取り組んでいるのだと思う。これらを土台として生徒指導の充実、さらには、地域父母の協力を得ながら、子ども達の健全育成に尽力していただきたいと思う。

(3) 「健康な体の育成」について

子どもたちの多くがコロナ禍の影響を受け生活習慣などが乱れたりする中で、基本的な生活習慣の確立や心も含めた健康づくりは大変であったと思われる。そうした中で各学校では生活リズムチェックや健康調査などを活用したり、さらには保護者との協力・連携のもと、感染予防対策や生活リズムの徹底、十分な睡眠や栄養バランスのとれた食事をとる大切さなど指導がされていたのではないかと推察する。また、体力面においても日常取り組んでいる運動の継続など、積極的に体を動かす活動が大きな力となっている。

心の健康づくりという面では、社会的問題にもなっている情報モラル等について、教育の一環として、個人情報保護、管理さらには情報モラルの欠如、リスク、コミュニケーションのあり

方を繰り返し指導し、意識の向上を図っていることは子どもたちの健全育成の意味でも重要であると思う。ルール作りなどについて家庭への啓発指導、協力理解に努めていってほしいと思う。

食育の充実については、栄養教諭による食育指導や各学級での給食指導、さらには栄養バランスの配慮や食材の安全、地場産品使用など食に対する充実を図っている。特にアレルギーを持つ子どもへの配慮は高く評価したい。また、地場産品による献立を考え提供していることは「食」のふるさと教育でもある「食」を通じて「厚岸」のもつ食材の美味しさを宝の一つとして、子どもたちに伝えていってほしい。

(4) 「ふるさと・キャリア教育の推進」について

各学校が厚岸の持つ地域の教育力（人材・素材・施設・自然・産業）などを活かした学習や体験活動等を行っており、厚岸の魅力を再認識していることが伺えた。また、海事記念館との連携の中で「厚岸の歴史」を学ぶ機会も取り入れている。社会科副読本も活用されていると思うが、現実の姿、未来の姿、そしてその礎となっている「厚岸の歴史」も学びながら、厚岸の良さ、文化、産業、自然の宝などを見つめていってほしい。キャリア教育については、それぞれの学校の活動が効果を上げている。それは子どもたちが体験活動を通して夢や目標、さらには勤労観・職業観など将来に向けての芽を確実に育んでいると思うからである。また、自分の成長や変容を実感できるようなキャリアパスポートの作成、活用など充実を図っていることは素晴らしいと思う。

さらなる「ふるさと・キャリア教育」を進めていくためには、課題となっている小中学校の系統性や位置づけなど精査していく必要があることから、今後、充実していくためにも検討していってほしいものである。

(5) 「学びの保障」について

新型コロナウイルス感染症対策は、各学校、教育活動を継続できるように感染予防に対してきめ細やかに取り組んでいた。また、感染症に対する理解、差別や偏見などの諸問題に対して指導していたことは単なる予防対策にとどまるのではなく意味あるものとして高く評価したい。ICTを活用した教育支援については、児童生徒1人1台タブレット端末の配備が完了されるなど一段と進んでおり、学習の中でタブレット端末の使用法や有効活用の工夫などさらなる研修、習熟を積み重ね、児童生徒にとって確かな教育支援なるよう取り組んでいってほしいし、教育効果を大いに期待したい。

職員研修の充実については、教師による教科指導や生徒指導の確かで、豊かな指導力・実践力が何よりも児童生徒にとって魅力の一つであり、信頼を得る一つである。その意味でも専門性を高める研修は「信頼される教師」づくりでもあると考える。互いに切磋琢磨し研鑽を積み、深め、それぞれ持っている力量を高めていってほしいと思う。教育行政も自ら高めていく先生達の研修を大いにバックアップしていってほしい。

特別支援教育については、それぞれの個の持っている特性やニーズに対応した支援のあり方、通常学級との関わり、児童生徒理解など全職員が共通理解に立って指導にあたるように進められている。また、通常学級の中で配慮しなければならない児童生徒に対しての支援や配慮などについて、研修や実践を通じて深めていることは評価したい。今後、各関係機関などの連携は勿論のこと、保護者との理解支援、協力を仰ぎ、連携を密にしながら、児童生徒それぞれの道を歩んでいけるような内容の充実を図ってほしい。さらなる特別支援教育の発展を期待したい。

防災教育の充実については、「自分の命や安全を自分で守る」ということを基底にしながら、それぞれ学校の環境実態に合わせて、幼・小・中・高の連携や地域・地域・町との連携、防災訓練や津波避難訓練に取り組んでいることは、児童生徒一人一人にいかされていると思う。今後も内容の充実を図りながらこの取り組みを継続していってほしい。

地元高校への支援については、まさに「地元で生きる人づくり」の一環でもあり、町の活性化

を図るうえでもその存在は大きいものとする。各学校をはじめ地域や町において、連携、交流を深め、互いに「地域づくり」に活用して欲しいと思う。今までの支援事業や「学び」のための支援、様々な「交流活動」等の支援が実を結び、やがては町の活性化の一つに繋げていけるようになればと願っている。

働き方改革については、勤務時間適正化など定着しつつあると捉えている。そうした中、教育現場では各教師が児童生徒とじっくり向き合える場の設定や時間の確保が必要であると聞き及んでいる。そのためには、より一層の教育業務のスリム化などが求められる。困難な状況や課題が多々あると思うが、課題解決のため教育行政の支援・指導を受けながら、職場全体で討議し、よりよい改善を目指し、誰にとっても働きやすい、働きがいのある職場、改革になるように考えて欲しいと願う。

3 社会教育関係

厚岸町の社会教育関係では、海事記念館・郷土館・太田屯田開拓記念館・情報館・スポーツ施設、ネイパル厚岸などの社会教育施設が充実しており、それらを活用した体験学習や活動などを通して、地域の良さやふるさとの持つ素晴らしさを自らの目や肌で知ることができていると思う。

人口減による過疎化の中で、自己肯定感や主体性・意欲を高めるためには、ふるさとを良く知り、ふるさとに貢献しようとする活動である。

厚岸町は地域を探究する教育活動も多く進められており、今後もそれを発展させていくことが求められる。

地方には、学校に協力的な役所、団体、住民も多く、そのリソースを活かしていくことが重要である。

4 教育行政全般

教育委員会と各学校が一体となり、教育行政・学校運営に取り組んでいることを評価する。

現在、急激な少子高齢化、労働人口の減少、デジタル社会への転換など様々な社会変化が生じているが、学校、家庭、地域が一体となり共に各課題に対応し、その成果を学校運営に反映している点を評価したい。

これからも新型コロナウイルス感染症をはじめ自然災害など予期せぬ事象が社会を覆うかもしれない。そのことを十分踏まえ、これまで得てきた貴重な体験や学びを基に築き上げてきた教育活動・実践を大きな財産として、今後の厚岸の教育をさらに高め、充実発展を期待している。

令和4年度教育行政執行方針	実施事業・取組等	実施の内容・状況・結果
<p>第1 管理課・指導室所管事項</p> <p>重点1 「確かな学力の育成」</p> <p>1 個別最適な学びの推進</p> <p>2 協働的な学びの充実</p> <p>3 ICT活用した学習の充実と授業改善</p> <p>重点2 「豊かな心の育成」</p> <p>1 特別の教科「道徳」充実</p> <p>2 直接的・間接的な体験活動による感動や達成感の共有し地域の人材を活用した学習</p> <p>3 生徒指導の充実</p> <p>重点3 「健康な体の育成」</p> <p>1 健康の維持・体力に関する指導の重点化</p> <p>2 情報モラル教育の充実</p>	<p>○指導方法・支援体制の工夫</p> <p>○学習形態の工夫</p> <p>○ICTの活用方法や使用方法の工夫</p> <p>○自分の考えを深められる授業</p> <p>○地域素材を活用した学習活動</p> <p>○教職員による組織的な対応</p> <p>○調査結果を生活改善に生かす取組</p> <p>○自己管理と情報モラルの指導</p>	<p>・習熟度別少人数指導やチームティーチングによる指導を実施したほか、小学校英語専科による指導を実施し、個に応じたきめ細かな指導が行える体制を整え、学習内容の定着を図った。</p> <p>・課題を明確にし、個人による解決や集団での解決など、学習の形態を工夫し学び合いを充実させることで、学習意欲を持続させるとともに達成感を味わうことのできる授業の改善を行った。</p> <p>・日常からタブレット端末を授業の様々な場面で積極的に活用している。また、授業における有効な活用方法や使用方法についての研修を通して、授業改善につなげている。</p> <p>・児童生徒が、道徳的な課題について考えたことを記録し、仲間との対話を通して、見方や考え方を広げたり、深められたりする授業を工夫することで、道徳的実践力の向上を図っている。</p> <p>・総合的な学習の時間や社会科、生活科等の学習において、地域の施設や人材を活用した学習活動を実施している。</p> <p>・日常生活において、自己肯定感を高められるよう受容的共感的な風土を醸成している。また、行動観察や各種調査を通して、子どもの変化を見逃さずに適切な関わりを組織的に行うとともに関係機関と連携しながら取組を進めている。</p> <p>・生活リズムの確認を定期的に行い、その結果から重点的な指導を行い、規則正しく充実した生活に向けた意欲の持続を図っている。</p> <p>・新体力テストを実施し、個人の成長を実感させるとともに、調査結果を分析して体育の授業を中心に学校生活の中で重点的な指導を行っている。また、運動習慣や生活習慣についての啓発指導を通して、家庭への理解と協力を求めている。</p> <p>・個人情報保護の確保、情報モラル・リスクやコミュニケーションの在り方について繰り返し指導を行い、意識の向上を図っている。ルール作りについて家庭への啓発指導を継続実</p>

3 食育の充実	<p>○栄養教諭による食育指導</p> <p>○給食だよりの発行</p> <p>○安全・安心で栄養バランスに配慮</p> <p>○アレルギーマスク食に対応した給食の充実</p> <p>○地場産物を取り入れた給食</p>	<p>○栄養教諭による食育指導を実施するとともに、給食だよりを通じて、食についての理解を広げられるよう指導している。</p> <p>・月に1回発行</p> <p>・釧路管内産の野菜の野菜の利用及び道内産・国内産の産地別食材の選別</p> <p>・関東・東北地方の1都16県で生産された生鮮野菜の放射性物質の検査の実施</p> <p>・副食(副菜)の充実</p> <p>・アレルギーマスク食コーナーを活用したアレルゲン除去食や代替食の供給を行っている。</p> <p>・地場産品を使用した献立の提供を通して、食品の産地や生産品への興味を高める工夫をしている。</p> <p>・漁協、農協からの食材の提供及び購入(ホッケ、サケ、タラ、昆布、牛乳ほか)</p>
重点4 「ふるさと・キャリア教育の推進」	<p>1 ふるさとの自然、産業、文化、人に触れる学びや体験</p> <p>2 キャリア教育の充実</p>	<p>○発達段階に応じたキャリア教育とふるさと厚岸を再発見する活動</p> <p>○学びや体験をまとめ、他者に伝える活動</p> <p>○自分の成長に気づいたり、将来の生き方について考えたりする教育</p>
重点5 「学びの保障」	<p>1 新型コロナウイルス感染症対策</p> <p>2 ICTを活用した教育支援</p> <p>3 職員研修の充実</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症対策及び感染予防に関する教育の継続</p> <p>○ICTを活用した教育の充実</p> <p>○専門性を高めるとともに、共通理解を進める研修の充実</p>

施すことで、保護者理解を深めている。

・栄養教諭による食育指導を実施するとともに、給食だよりを通じて、食についての理解を広げられるよう指導している。

・月に1回発行

・釧路管内産の野菜の野菜の利用及び道内産・国内産の産地別食材の選別

・関東・東北地方の1都16県で生産された生鮮野菜の放射性物質の検査の実施

・副食(副菜)の充実

・アレルギーマスク食コーナーを活用したアレルゲン除去食や代替食の供給を行っている。

・地場産品を使用した献立の提供を通して、食品の産地や生産品への興味を高める工夫をしている。

・漁協、農協からの食材の提供及び購入(ホッケ、サケ、タラ、昆布、牛乳ほか)

・厚岸町の豊かな自然、多様な産業、特色ある教育・文化施設などに触れる機会を教育課程内で設定するとともに、学んだことや感じたことをまとめ、発表する学習を位置づけている。

・地域の人材や町内企業の協力を得ながら、望ましい勤労観や職業観を育み、児童生徒が自らの将来に向けた目標を持てるようなキャリア教育を推進している。

・自分の成長や変容を実感できるよう、小・中・高の12年間の記録を蓄積するキャリアパスポートを作成し、活用を図っている。

・学校の教育活動を継続させるため、密閉・密集・密接を回避し、教室の換気を適切に行うなど、児童生徒・教職員等の新型コロナウイルス感染症対策を行った。また、空気清浄機や大型扇風機などの整備や、校内消毒用アルコールなどの購入など、感染症対策の徹底に努め、感染症に対する理解と予防法、差別や偏見についての指導を継続実施している。

・1人1台のタブレット端末を活用した授業を実施している。教材の配布や情報収集、自分の考えをまとめ、互いの考えを交流するなど場面に応じた使い方を工夫して、教育効果が高められる工夫をしている。

・教員のキャリアアップに即した実践的かつ効果的な研修を企画し推進できるよう町立研究所をはじめとする既存組織や道教委から出されている資料等を活用しながら、教員の資質・能力の向上を図っている。

4 特別支援教育の充実	○個のニーズに対応する教育支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童生徒に対して、適切な指導・支援を進めていくために、通級指導の実施や学習支援員を配置し、きめ細かな対応を行える体制を整えている。また、家庭や関係機関とも連携して、個の実態に応じた教育支援を行っている。 ・児童生徒の情報共有し、共通した取組を組織的に行えるよう特別支援コーディネーターを核とした校内体制を整えている。
5 防災教育の充実	○防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・町の合同避難訓練に参加するなど、義務教育9年間を見通した防災教育を計画・実施している。防災教室や日常指導を通して、状況に応じた判断や行動ができるとともに、防災意識をもたせよう継続実施している。
6 地元高校への支援	○厚岸翔洋高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・厚岸翔洋高等学校通学バス定期券購入助成の継続するとともに新学習指導要領に基づき4年度～5年度にかけて学習用コンピュータ端末の個人持ち込みに対し、保護者負担の軽減と入学者確保のため新たな支援を実施した。また、前年度に引き続き、学校行事や部活動における大会出場等に際してのスクールバス送迎支援を実施した。
7 働き方改革	○働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムを活用し、教職員の客観的データをもとに出退勤の状況把握に努めるとともに、必要に応じて学校管理職との面談を実施し、改善に努めた。

■自己評価

【管理課】

国のGIGAスクール構想に伴い、児童生徒・指導者に対して1人1台のタブレット端末の配備が完了し、本格運用を開始して1年が経過したが、各学校については教材の配布や情報収集、互いの考えの交流する場面に応じた使い方を工夫して、学習の充実と授業改善などに教育効果が得られています。児童生徒への就学支援においても、タブレット端末の持ち帰りに際して家庭での通信利用料の継続支援など、経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者への援助に努めました。学校施設の維持管理については、改修・保全を継続して実施し、教育環境の整備を図りました。

また、校務支援用パソコンを活用して教員の業務負担軽減を図るとともに、出退勤時間の管理に努め、学校における働き方改革を推進しました。教員住宅については、継続的な補修の実施に努め、住宅整備の推進を図りました。

【給食センター】

剣路管内で生産された農産物を取り入れた献立を提供しました。また、関東・東北地方の1都16県で生産された生鮮野菜を使用する際には、放射性物質検査機器により、放射性物質が基準値内であることを確認し、安全・安心な学校給食の提供を目指すとともに、副食（副菜）を充実させ、栄養バランスに配慮した給食の提供に努めました。アレルギー食は、専用スペースによりアレルギー除去食や代替食がスムーズに調理されており、牛乳を含め各学校への配送の工夫などを実施しました。学校における食育は、栄養教諭を配置し、各学校で給食指導及び食育の推進を図るとともに、町内小学校による施設、調理作業の様子などを見学し給食センターの仕事について学習することができました。

給食献立には、厚岸で漁獲されたホッケやタラを多く活用したほか、漁協から無償提供された厚岸で漁獲されたサバやタラ、昆布を使った給食を提供し、児童生徒に地場産物であることを認識させたり、地元産農産物のレタスやシイタケ、牛乳をより多く提供することができました。

毎月給食だよりを発行し、地場産物給食などを写真で紹介する新しい試みに対して食の重要性を発信することができました。町内全校でセレクト給食を各学期毎で実施し、自分が選んだ給食を食することで興味と関心を高め、食の大切さを学ぶことができました。

【指導室】

「誰かな学力の育成」については、各校で主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善について校内研究を核とした取組が図られています。より効果的にタブレット端末を活用した授業についても検討しながら進められています。少人数指導は、算数・数学・英語で行われており、習熟度に応じた授業を展開し、学習内容の定着と学習意欲の向上を図っています。小学校では、英語専科による指導が行われています。また、家庭学習や放課後学習などを通して、きめ細かな個別指導を行うことで、指導内容の定着を図っています。全国学力・学習状況調査や標準学力調査などの客観的調査の結果から、学力・学習状況を把握し、課題改善のための方策を検討していきます。

「豊かな心の育成」については、周囲の環境に積極的に関わる学習を通して、よさを実感したり、集団形成や感性を磨く工夫が図られています。また、教師の日常観察や各種調査により、問題が発生する前の予防的指導のほか、積極的な関与による自己肯定感の向上と集団の風土の醸成を促す教師の関わりが組織的に行われています。スクールカウンセラーによる授業やカウンセリングが実施され、個に応じたサポートを実施しています。

「健康な体の育成」については、生活リズムの調査と重点的な指導を年に数回実施することで、家庭での実践意欲の向上を図りました。新体力テストの結果から、体育科の授業で、運動機能や持久力を高める取組を行っているほか、外遊びの工夫や徒歩登校期間を設けるなど、運動機会を増やす取組を実施し、改善を図っています。厚岸町保健福祉課事業の「思春期講座」や「みんなすこやか厚岸21」と連携し、性に関する学習、歯の健康、喫煙防止及び薬物乱用に関する指導を継続して実施しました。

「ふるさと・キャリア教育の推進」については、小・中・高の交流や体験学習が実施され、近い将来についての目標をもつ機会となりました。学校運営協議会は、地域の方の学校に対する理解を深めるほか、地域と連携した取組について検討する場となっています。地域の人材や施設を活用した学習を通して、地域のよさを知り、理解を深める機会を継続的に設定しています。

「今日的な教育課題への対応」については、1人1台のタブレット端末を効果的に活用した授業が実施されるよう情報提供に努めました。小中学校合同の避難訓練に地域の方や保育園の職員・園児にも参加してもらうなど、防災意識を高める工夫に努めました。また、危機管理マニュアルの点検等について働きかけ、体制の整備に努めました。

第2 生涯学習課所管事項
重点1 「生涯学習事業の充実」

- 早寝、早起き、朝ごはん運動の奨励
- あいさつ・声かけ運動の奨励
- 家庭教育講座の実施

- 親子体験講座の実施
- 友好都市子ども交流事業

- ・町内の各小中学校に横断幕の掲示
- ・町内の各小中学校に横断幕の掲示
- ・新入生の保護者を対象とした子育て講話の実施
(講師：北海道公立学校スクールカウンセラー 佐々木 啓子氏)
- 10月6日 厚岸小学校のスクールニング検査時に実施 (10名)
- 9月30日 真龍小学校のスクールニング検査時に実施 (25名)
- 10月13日 太田小学校のスクールニング検査時に実施 (2名)
- ・講師の予定が合わず未実施。
- ・7月下旬から3泊4日で山形県村山市の児童が厚岸町を訪れ交流を行う予定だったが、

- ・令和元年度から4年度まで感染拡大の観点を中止。
- ・5月28日に真龍小学校を会場に感染対策を講じながら、発表形式で実施。最優秀賞 真龍中学校2年 桑田羽琉さん
- ・1月13日・ジュエリー石鹸づくり(1名)、ドットマンドラマ体験(1名)
(講師：生涯学習係スタッフ)
- ・5月に受け入れ企業(39企業)の一覧を町内各中学校に送付。
- ・感染拡大の観点を中止。
- ・町内の児童生徒及び一般町民を対象に防災に係わる標語を募集。
- 応募数389点の作品の中から最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作8点を選定し、生涯学習情報誌11月号に掲載し、町民への周知を図った。
- ・感染拡大の観点を中止。
- ・少年の健全育成及び各自治会子ども会の親睦と世代間交流に寄与することを目的に実施。
- 剣路地区地域子ども会研修交流会は感染拡大の観点により中止。
- 冬季体験事業「親子でるるる」3月4日実施。ネイパル厚岸を会場に「雪の森を散歩しよう」開催(参加：3組10名)
- ・地域における青少年リーダー育成するために、ワークショップや体験活動を通じた研修の支援だが、道教委、フロンティアリーダー養成事業に移行されたため、研修への生徒派遣及び参加料の支援はなし。
- ・12月16日に実施。町内に居住する満25歳未満の模範となる、2個人を表彰。
- 丹羽晃悠さん(厚岸中学校3年)、大村恭一さん(厚岸翔洋高等学校3年)
- ・犯罪や非行防止、交通事故のない明るい社会を築くために町民への啓発を行う。
- 7月20日～30日 啓発グッズやチラシを湖南・湖北地区で配布
- 12月16日に社会を明るくする運動標語入賞者表彰式を実施。
- 交通安全部門3名及び非行防止部門3名を表彰(応募者 各部門106名)
- ・青少年の健全育成を図り、適切な指導援助を講ずる。
- 専任巡視補導の実施(22回実施 補導員延べ70名)
- 特別巡視補導(町民花火大会、牡蠣まつりのみ実施)
- 育成センター所員による巡視(単独巡視補導11回、特別巡視補導2回、専任補導70回)
- クリーン厚岸運動の実施(小学校3校、中学校3校、高校1校 20回実施)
- ・年3回発行(9月・2月・3月)
- ・各団体への補助金等の支援
(女性団体連絡協議会、PTA連合会、地域子ども会連絡協議会)
- ・1月5日真龍小学校体育館で実施(対象者105名のうち出席者63名)

- 姉妹都市中学生等国際交流事業
- 少年の主張大会
- 冬休みモノづくり(工作)体験会
- 中学生職場体験支援事業の実施
- 防災キャンプ事業の実施
- 防災標語の募集の実施
- 通学合宿事業
- 子ども会健全育成事業
- ジュニアリーダーコース事業への中高生の派遣
- 優良青少年表彰事業の実施
- 社会を明るくする運動啓発事業及び優秀標語表彰の実施
- 専任補導員等による巡視や各学校におけるクリーン厚岸運動の推進
- 「育成センターだより」の発行
- 社会教育関係団体への支援
- 厚岸町「二十歳のつどい」実施

○今年から成人年齢が18歳に引き下げられたが当町は20歳を対象に「二十歳のつどい」として名称変更し感染対策を講じながら、対象者、来賓のみが出席し実施。オーブニンダセレモニーは、厚岸かぐら同好会の演舞を披露し、集合写真は成人者全員と町長、実行委員長、うみえもんで撮影を行った。

○記念品は、フォトフレームを用意し出席者全員に贈呈した。また、厚岸町のローカルフードとして「パンとケーキの前田店の『ねじりパン』と「森高牧場の『森高牛乳』」を地元給食として配布した。

・厚岸町在住のおおむね65歳以上の方を対象に、学習、交流を行い、豊かな人間関係を培い、生きがいのある人生を送ることを目的とし、大学を開設し年間事業を行った。

○感染対策を講じながら、回数を分けて実施する月もあったが、概ね、年間予定どおり開催できた。

第1回学習会、始業式 場所：太田活性化施設らくとびあ

4月21日 32名

内容：始業式、情報館司書によるブックトーク、紙芝居ほか

第2回学習会 場所：真龍小学校

①6月2日 18名 ②6月17日 12名

内容：介護予防講座 部活動「ヨーガ」「小物づくり」

第3回学習会 場所：真龍小学校

①7月7日 19名 ②7月21日 11名

内容：「厚岸大橋の歴史講座」部活動「厚岸大橋を描く」

○「まなviva厚岸」の実施

・真龍小学校学校開放事業を活用し、町民の学習要求に応えた講座を通年で開催した。

○ヨーガ ○ストリートダンス ○カルトナーージュ ○三味線 ○エコクワフトバンド

○己書 *実行委員会組織で6講座 延べ163講座、受講者1,376名

○英会話教室の実施

・町民の英語力の向上と文化相互理解を図り国際性を養うことを目的に10月～12月全8回で実施。

○講師：厚岸町A.L.T.:クリストファー・マムード氏・リース・バートン氏
町民アシスタント：小黒建昇氏

○受講者：13名

○生涯学習講演会

・1月21日 会場：真龍中学校 参加数：90名

「ペップトークをややる気を引き出す魔法の言葉～」 講師：岩崎由純氏

*厚岸町PTA連合会研究大会と共催事業

・町内外の指導者を講師に講座を開催し、町民の豊かで文化的な生活の向上に寄与することを目的に実施。

○生涯学習講座の実施

- 4月9日 フライパンでパンづくり講座 講師：下島洋美氏 (町外) 受講者10名
- 6月18日・7月9日 陶芸体験講座 講師：戸田 恵氏 (町内) 受講者6名
- 8月28日 フラワーアレンジメント体験講座 講師：渡部 望氏 (町内) 受講者10名
- 10月1日 ハバク助(おぼろ)づくり講座 講師：渡部 望氏 (町内) 受講者11名
- 10月2日 レジン雑貨づくり体験講座 講師：石川静世氏 (町内) 受講者4名
- 10月2日 コラージュアート体験講座 講師：石川静世氏 (町内) 受講者5名
- 10月23日 ヒンメリ体験講座 講師：児島 舞氏 (町外) 受講者12名
- 12月10日 洋風しめ飾り体験講座 講師：渡部 望氏 (町内) 受講者14名
- 1月13日 冬休みモノづくり(工作)体験会 講師：生涯学習係 受講者2名
- 3月26日 ヨガお試し体験講座 講師：加藤千絵氏 (町外) 受講者9名

○社会教育委員の研修機会の提供

- ・社会教育委員の資質の向上を図るため、各研修会等への派遣を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。
- 7月7日～8日 北海道社会教育委員長等研修会(札幌市) 森脇委員長出席
- 8月26日 釧路管内社会教育委員研修大会(厚岸町) 参加委員9名 参加市町村8市町村、参加者数60名 (会場：太田活性化施設らくとびとびあ、太田屯田開拓記念館、海事記念館)
- 10月14日 北海道社会教育研究大会(留萌市) オンライン開催 参加者2名

○広報・情報提供の充実

- ・生涯学習事業に関する情報等の提供、PR、事業報告を行なう。
- 生涯学習情報誌「L L T I M E S」(毎月発行)
- 生涯学習事業や行政、各団体、各学校等の事業の情報提供
- ホームページ随時更新(月1回程度)
- 生涯学習各種事業情報や施設利用の案内などを周知を行う。
- 生涯学習コーナー設置
- 真龍小学校内生涯学習課事務所前及び町民ホールにコーナーを設け、生涯学習に関する資料の情報提供及びポスターの掲示。
- 生涯学習係Facebookアカウントの開設
- 生涯学習係事業の案内や記録などを写真やポスターなどを掲載しながら情報提供
- *投稿回数：20回 リアクション総数：271件(いいね183件、超いいね85件、すごいね3件)

○人形劇鑑賞事業

- ・11月27日 会場：情報館 入場者数19名 人形劇団「おたのしみ劇場・ガウチョス」による公演を実施。

○少年芸術鑑賞

- ・8月31日 真龍中学校、9月7日 真龍小学校を会場に実施予定であったが、感染拡

<p>○トップノッチコミュニケーション事業</p> <p>○厚岸町民文化祭（作品展示会） （芸能発表会）</p> <p>○ひまな人の作品展 ～よみがえるものたち～開催</p> <p>○厚岸町吹奏楽フェスティバルの開催支援</p> <p>○厚岸町文化協会への支援</p> <p>○文化振興助成の実施</p> <p>○鉤根絵手紙移動展の実施</p>	<p>大の観点により中止</p> <p>○12月4日 会場：真龍小学校 入場者数34名 公演団体Heaven's Music Projectによる「ジャズナイトin厚岸2022」を実施</p> <p>・10月28日～30日 会場：社会福祉センター 出展者数19団体、13個人、150名 出展数683点 来場者数324名</p> <p>・11月20日 会場：社会福祉センター 出演団体22団体、2個人、出演者93名、来場者数304名</p> <p>・3月17日～21日 会場：情報館 出展者「ひまな人の工作」（鈴木氏） 作品数153点、観覧者数127人</p> <p>○数年間にわたり、個展の開催を強く要望する声が町民から多くあり、出展者の意向で個人を特定しないように配慮しながら初の個展開催となった。</p> <p>・9月4日 会場：社会福祉センター 約200名 使用料の支援</p> <p>・厚岸町文化協会に補助金の支援</p> <p>・本年度、助成実績なし</p> <p>・鉤根管内各市町村の「絵手紙」を集約し、各市町村で巡回展示を実施</p> <p>○厚岸町は9月28日～10月2日 情報館で開催（作品展示数196点 観覧者 249名）</p>
<p>○文化財歴史講演会</p> <p>○体験学習セミナー</p> <p>○お出かけ先生</p>	<p>・1月29日 「美術史の観点からみたま国泰寺関係資料」 20人 講師：北海道立釧路芸術館 熊谷学芸員</p> <p>・6月18日 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所との共催事業として、大黒島へ上陸し、散策しながらコンブや藻類、貝などについて解説。 参加者 8名</p> <p>・町内小中学校などに対する授業支援や講師派遣の要請に応え、学芸員が地域の歴史や文化財について授業、解説を行い、その普及・啓発に努めた。</p> <p>・4月21日（真龍小学校6年）町の成り立ちと村山市について授業を実施。</p> <p>・7月7日・21日（生きがいがい大学）厚岸大橋について。</p> <p>・10月18日（厚岸小学校6年）地層について授業を実施。</p> <p>・10月21日（厚岸小学校4年）アイヌについて授業を実施。</p> <p>・10月25日（中小企業家同友会）先史時代（続縄文文化）について</p> <p>・11月29日（中小企業家同友会）先史時代（察文・オホーツク・アイヌ文化）について</p> <p>・1月24日（中小企業家同友会）江戸時代</p> <p>・2月21日（中小企業家同友会）明治時代</p>

重点2 「海事記念館事業の充実」

○学校授業支援企画展「なつかしの
道具たち」

○特別展

○企画展

○厚岸かぐら支援

○床潭沼ヒブナ生息調査

○アッケシソウ増殖推進事業

○文化財パトロール

○資料収集調査

・2月4日～3月5日まで展示。昔使っていた懐かしい道具（収蔵資料）を展示し、町内
小学校の学習プランに合わせた展示。

・「神岩岩跡・堅穴群」

3月11日～4月9日 「神岩チャシ跡及び堅穴群」のジオラマを中心に、過去の調査成果
や遺物を展示。

・『厚岸大橋完成から50年』

3月18日～4月16日 厚岸大橋に関する写真や「橋」の構造についてのパネルを展示。

・真龍小学校授業（伝承校）：1月20日、27日、2月1日、3日、6日、19日、3月3日

・釧路芸術館「国秦寺展」：9月17日

・町民文化祭：11月20日

・厚岸町成人式セレモニー：1月5日

・6月30日～7月、9月6日～7日の合計2回実施。ヒブナは確認できなかった。

・郷土館前：4月～10月までの間、播種・海水散布・雑草駆除・種採取。

・チカラコタン地区での新規栽培：栽培地の耕耘、播種・海水流入路の随時点検清掃（随
時）・土壌及び海水面の調査（委託）・種子の確保（10月～11月）

・通年での町内の指定文化財の巡回パトロール実施と説明板や標柱の補修・周辺整備。

また、学芸員が北海道教育委員会より文化財調査員として委嘱され、町内の国及び北海
道指定の文化財と埋蔵文化財包蔵地の状況確認に努めた。

6月18日：大黒島海鳥繁殖地・8月4日：屯田兵屋、厚静小学校横遺跡・9月6日：床潭沼
ヒブナ生息地、国秦寺跡・2月10日：正行寺本堂、蝦夷三宮寺国秦寺関係資料

・寄贈資料5件

徳田氏（厚岸大橋工事関係資料）、佐田氏（厚岸大橋工事関係写真）、勝木氏（厚岸大橋
工事関係写真）、岸野氏（厚岸大橋工事関係新聞記事）、朝日氏（正行寺本堂等に係る新
聞記事）

・資料調査

釧路芸術館の特別展「厚岸 国秦寺の200年」にかかる資料の調査。海事記念館学芸員が
共同研究者となり、国秦寺に所蔵されている資料の調査を実施した。

○神岩チャシ跡堅穴群模写整備事業

・レーザースキャンにより得た神岩チャシ跡の詳細なデータを基にジオラマ4基（史跡全体模型、チャチャカムイのチャシ及び堅穴群、神岩第1チャシ、丸山チャシ）を制作。（アイヌ政策推進交付金を活用）

○埋蔵文化財の保護に係る調査

・厚岸町に所在するチャシ跡の調査を国立アイヌ民族博物館職員と共同で実施（筑紫恋第一チャシ跡）。調査は次年度以降も継続予定。
 ・高速道路建設に係る調査の実施。
 ・尾幌・糸魚沢道路の建設にあたって、厚岸小学校横遺跡及び可能性地（埋蔵文化財の所在する可能性のある土地）の試掘調査を実施した。

○広報活動事業

・海事記念館通信の発行 *広報4月号、6月号、11月号、2月号
 ・ホームページ及びSNS（ツイッター、フェイスブック）の随時更新。

○プラネタリウム番組投影

・春番組 3月1日～5月31日 83回 398名（星座解説／アイヌ番組／幼児向／全天）
 ・夏番組 6月1日～8月31日 112回 857名（ ）
 ・秋番組 9月1日～11月30日 95回 728名（ ）
 ・冬番組 12月1日～2月28日 49回 265名（ ）
 ・夏番組「天の川を旅して～南半球の星空～」 レゾン：運上亜沙美（ホラナイ）
 ・秋番組「秋の星座を巡る～はやぶさ2で探る生命の起源～」

○プラネタリウム番組制作

・冬番組「冬に輝く星座たち～変わる北極星～」 レゾン：運上亜沙美（ホラナイ）
 ・春番組「かみのけ座～女王のいのり～／はてしない宇宙そのひろがり」
 レゾン：運上亜沙美（ホラナイ）

○プラネタリウム学習投影

・小中学校の学習指導要領に沿った内容の投影を実施。
 8月24日（厚岸小4年生10名）、8月31日（太田小4年生5名）、11月18日（太田中3年生7名）
 12月21日（太田小4年生16名）

○プラネタリウム夜間投影

・プラネタリウム番組を広く認知してもらうため、平日の夜間に投影を実施。
 4月8日（中止）、4月22日（6名）、5月13日（14名）、5月27日（8名）、6月10日（25名）、
 6月24日（9名）、7月8日（10名）、7月22日（7名）、8月5日（22名）、8月26日（11名）、
 9月16日（24名）・9月30日（3名）、10月7日（8名）、11月18日（6名）、12月9日（12名）、
 1月13日（8名）、1月27日（9名）、2月10日（5名）、2月22日（19名）、3月10日（42名）、
 3月21日（5名）

○熟睡プラ寝たリウム

・勤労感謝の日に、プラネタリウムの星空を鑑賞しながら、日頃の疲れを癒やす目的で日本プラ寝たリウム学会との共催で全国一斉に実施。

- 11月23日(1回目9名/2回目1名)
- ・夜間投影終了後に、町民の皆さんから募った七夕メッセージにイラスト等を付加し投影。
 - 8月5日(100メッセージ投影 22名)
 - ・オーロラメッセージを講師に招き、世界各地で撮影したオーロラを含む大自然の映像をプラネタリウム室で中学生の学習と町民向けに放映。
 - 6月17日・18日の2日間(中学生学習放映63名/2回、一般放映65名/2回)
 - ・「宇宙の日」事務局宇宙航空研究開発機構(JAXA)との連携事業を実施。
 - 絵画の部16点(小学生)
 - 10月29日～11月20日作品展示(表彰者5名・1月18日表彰) 観覧者190名
 - ・10月26日(15名) 太田小学校グラウンドで釧路市こども遊学館の移動天文車「カシオペア号」と職員による天文解説を交え、星雲や恒星を観察。こどもクラブも同時開催
 - ・人や動物の体を動かしている「電気信号」を、マッスル・センサーを使って調べる。
 - 2月18日 ①(こどもクラブ2名)、②(一般および小学3～6年生:5名)
 - ・全国科学館連携協議会の巡回展示物等貸与支援事業を活用。 観覧者900名
 - 6月4日～7月24日「かるたでよみとくわたと世界のつながり」
 - 9月10日～10月2日「宇宙をさわる」 観覧者465名
 - ・小惑星リュウグウサンプリングを展示し、小惑星リュウグウと小惑星探査機はやぶさ2プロジェクトの紹介する展示を行った。
 - 6月12日～7月17日 観覧者706名
 - ・夏休み中に町内の小中学生が作った、海に関する作品を募集・展示。
 - 10月8日～10月23日(表彰式:10月19日) 作品数101点 観覧者342名
 - ・6月22～24日(厚岸翔洋高校2年生1名)・9月1～2日(太田中学校生2年生1名)
 - ・10月5～6日(厚岸中学校生2年生2名)・10月13～14日(真龍中学校生2年生2名)
- <学校>
- 4/20(真龍小:解)、6/17(真龍小:自)、6/22(羅臼町羅臼小:ブ・解)、6/24(中標津町丸山小:ブ・解)、7/1別海町中春別小(ブ・解)、7/8(釧路市鳥取小:ブ)、7/12(釧路市愛国小:ブ・解)、7/14(中標津町計根別学園:ブ・解)、7/20(弟子屈町弟子屈小:ブ・解)、7/22(弟子屈町川湯小:ブ・解)、8/25(根室市柏陵中:ブ・解)、9/2(根室市厚床小:ブ・解)、9/6(釧路市鳥取西小:ブ・解)、9/8(釧路市青葉小:ブ・解)、9/8(標茶町虹別小:ブ・解)、9/13(標茶町標茶小:ブ・解)、9/15(浜中町散布小:ブ・解)、9/16(釧路市光陽小:ブ・解) 10/7(釧路市立美原小学校:ブ・解)、10/14(釧路市立湖畔小学校:ブ・解)、10/26(真龍小学校2年生:解)、11/1(浜中小学校5

○星に願いを

○オーロラ映像上映会

○「宇宙の日」作文・絵画展

○ほしぞら教室

○わくわく科学実験教室

○パネル巡回展

○小惑星リュウグウとはやぶさ展

○海の作品展

○職場体験受け入れ事業

○各種団体受入れ

・6年生 : プ・解)、12/21 (厚岸小学校4年生: プ・解)、2/8 (厚岸小学校3年生: 解)、2/17 (太田小学校: 解)

<その他>

4/8 (新規採用職員研修: 解)、5/18 (友遊児童館: プ)、5/28 (厚岸町観光協会: プ)、5/28 (K.C.ビーンズ: プ)、6/23 (しんりゅう保育所: プ)、7/1 (白老友の会: 解)、7/29 (放課後ダイサービスという: 自)、7/29 (太田農協女性部: 解)、7/30 (子夢希児童館: プ)、8/3 (標茶町役場職員: プ・解)、8/10 (放課後ダイサービス空音: プ)、8/26 (釧路管内社会教育委員研修会: プ・解)、9/21 (厚岸町生きがい大学: プ・解) 9/28 (東武トップツアー北海道家庭学校: 自)、10/8 (国泰寺まるわかりバスツアー参加者: 解・自)、10/20 (もっとわくわくクラブ: 解)、10/22 (友遊児童館: 自)、11/17 (北海道科学館連絡協議会研修: プ・解)、11/19 (友遊児童館: プ)、11/23 (村山市訪問団: 解)、11/27 (釧路臨港鉄道の会: 自)、12/6 (友遊児童館: プ)、12/27 (町民検討会議: プ)、2/18 (友遊児童館: 自)、2/22 (ぶらっと: 自)、2/25 (友遊児童館: プ)、3/28 (放課後ダイサービス「という: 自)」: プ)

【注】…プ: プラネタリウム投影、解: 学芸員解説

・子どもたちが、歴史や科学教育を通して交流を図り、自ら取組むことのできる心や仲間と協力することの大切さを学ぶ目的で実施 (小学生会員: 11名)

○海事記念館こどもクラブ

第1回 (5月) オリエンテーション 5名
 第2回 (6月) オーロラ上映会 8名
 第3回 (7月) カヌー体験と水辺の生物観察 6名
 第4回 (8月) 悪天候で中止
 第5回 (9月) 厚岸の歴史探訪 5名
 第6回 (10月) 星空教室 (カシオペア号による観察) 4名
 第7回 (11月) まが玉づくり 3名
 第8回 (12月) みつろりうキヤンドル作り 7名
 第9回 (1月) スライム作り 7名
 第10回 (2月) マッスル・センサー 2名
 第11回 (3月) 万華鏡作り 5名

○海事記念館探検クイズ

・館内において展示物や海に関するクイズをテーマ毎に出題。
 (春) 4月1日～6月30日 「植物について知ろう!」 20名
 (夏) 7月1日～9月30日 「太陽と惑星について知ろう!」 34名
 (秋) 10月1日～12月28日 「雲について知ろう!」 9名
 (冬) 1月5日～3月31日 「花について知ろう!」 14名

重点3 「情報館事業の充実」

○3館スタンプラリー

○情報館本の森フェスティバル

○子ども読書推進事業

・海事記念館・郷土館・太田屯田開拓記念館の入館者の利用促進を図るため実施し、達成者には記念品を贈呈。達成者 64名

・7月23日～24日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

・4月29日 分館工作会「ダンシングフラワー」 参加者 2名

・6月26日 春の子ども読書推進事業「おいしいお菓子の世界」①おはなし会、②工作会(紙ねんどでつくっておかしやさん!) 参加者 15名

・10月27日～11月27日 読書ビンゴ 参加者 38名

・11月3日 分館工作会「CDケースでつくるステンドグラス」 参加者 26名

・11月19日 秋の子ども読書推進事業①本の森のおはなし会、②万華鏡をつくろう!
参加者 12名

・11月26日 1日司書体験・参加者 1名。

・2月11日 冬の子ども読書推進事業「ぬいぐるみのおとまり会」①工作会「おりがみでおべんとうをつくろう」、②おはなし会 参加者 36名

・10月29日 北海道立文学館出前講座「昭和歌謡を読む～古閑裕而の場合」

参加者 13名

・11月13日 「絵本チリとチリりができるまで」 講師 いかや氏 参加者 33名

・12月1日～18日 いかや氏「絵本原画展(チリとチリりまちのおはなし)」

観覧者 61名

・情報館所蔵もしくは「みんなでシネマ(会員)」のビデオ・DVDから選定し、月2回上映。

・1月5日・6日 冬休み子ども映画会「すみっこぐらし青い月夜の魔法のコ」[宮西達也劇場おまえうまそうだな] 観覧者 31名

・3月25日・28日 春休み子ども映画会「ギガントサウルス ギガントとレースしよう」[くまのこジャッキーとおひさまのスイーツ] 観覧者 10名

・情報館所蔵もしくは「みんなでシネマ(会員)」のビデオ・DVDから選定し、月2回上映。

○名作鑑賞会

○土曜おはなし会

○保育所・学校・児童館での読み聞かせ等

・子どもや親子連れを対象に、絵本や紙芝居等の読み聞かせなどを月2回実施。

・3保育所、2小学校(真龍小学校は学校司書・小さな絵品箱・情報館で対応。厚岸小学校は学校司書で対応)、2児童館での読み聞かせ。

・真龍小学校でのブックトーク(3年生～6年生)

・厚岸小学校・真龍小学校・太田小学校でのブックフェスティバル

・カトリック幼稚園での読み聞かせ(年3回)

・就学時健診時における子ども読書アンケートの実施。

・5月19日～7月7日 エクセルスキルアップコース(全8回) 参加者 1名

○文学(読書)講演会

○子ども映画会

○幼稚園での読み聞かせ

○家庭内読書活動の推進

○パソコン講習事業

・ 7月26日～7月30日 中学生対象パソコン講座（エクセル基礎コース）（全5回）

参加者 5名

・ 10月13日～12月15日 ワード基礎コース（全8回） 参加者 2名

・ 12月2日・4日 年賀状講座 参加者 3名

・ 1月6日～11日 中学生対象冬休みパソコン講座（ワード基礎コース）参加者 1名

・ 1月19日～3月16日 エクセル初級コース（全8回）参加者 1名

（パソコン講習事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策から定員の半数程度で募集）

○他部局との連携事業

・ 厚岸町保健福祉課との連携（ブックスタート、絵本の広場）

・ 介護老人保健施設「ここみ」との連携（資料貸出）

・ 生涯学習係との連携（生きがい大学での読み聞かせ等）

・ 環境林務課・海事記念館との連携（ガイアナナイト2023inあつけしでの朗読）

・ 26ステーションを巡回。

・ 7月23日～8月13日 館内クイズ「厚岸大橋クイズ」参加者133名

・ 7月23日・8月3日 お話し会と工作会「牛乳パックで射的を作ろう」参加者 24名

・ 8月7日 「夏休み映画会（スチュアートリトル）」（1回上映）観覧者 0名

・ 8月5日～21日 「くじらくんぬりえコンクール」展示 参加者 45名

・ 1月7日～21日 2023カレンダー無償配布会 各家庭・各企業からいただいたカレンダーを無償で配布。

・ 9月1日～19日 祝厚岸大橋開通50周年記念役場収蔵絵画展 観覧者 69名

・ 10月5日～23日 北海道立文学館地域連携事業「おいしい美味しい！文学」

観覧者 78名

・ 9月2日～17日 あつけし・あんしん認知症月間「読む・知る・認知症」資料展示。

・ 9月16日・17日 映画「99歳母と暮らせば」と上映前の読み聞かせ 参加者 40名

*地域包括支援センターと協働で事業を実施し、認知症の理解を深める機会とした。

・ 5月18日 太田小学校1・2学年生活科見学 18名

・ 7月8日 真龍小学校2学年生活科見学 31名

・ 8月25日 霧多布小学校2学年生活科見学 7名

・ 9月14日 茶内小学校2学年生活科見学 14名

・ 8月30日・10月19日 真龍小学校読書クラブブックヤードツアー&ブックトーク 16名

・ 10月7日 釧路短期大学施設見学 22名

・ 6月24日～26日 厚岸翔洋高等学校2学年企業実習 1名

・ 10月5日・6日 厚岸中学校2学年職場体験 1名

・ 10月13日・14日 真龍中学校2学年職場体験 2名

・ 10月27日・28日 茶内中学校2学年職場体験 1名

○図書館バス運行

○夏休み読書推進事業「本の森夏休みお楽しみウィークリー」

○カレンダー無償配布会

○町民作品展等

○あつけし・あんしん認知症月間

○小・中・高校等総合学習協力

<p>○本の森からのおたより発行 ○情報館ホームページ・SNS ○電子図書館の開設 ○各種展示コーナーの開設</p>	<p>・情報館事業や休館日の周知、新刊図書などを広くPRするため、年6回発行。 ・情報館の蔵書検索・予約、行事・展示案内、スタッフ日記など情報館のPRと利用者の利便性を図った。 ・電子書籍の選書や行政資料の製作等により、電子書籍の充実と利用促進を図った。 ・11月11日・12日 電子図書館入門講座 参加者 15名 ・時節に合わせて資料の展示を行い、利用者の読書への関心・話題提供と利用拡大を図った。</p>
--	--

■自己評価

【生涯学習係】

令和4年度生涯学習事業は、令和3年度に引き続き、感染リスクを回避できない事業は中止としました。少人数で開催できる事業については、感染対策を講じながら実施しました。

友好都市子ども交流事業は、今年度は山形県村山市の児童が厚岸町を訪れ、交流を行う予定でしたが、移動を伴う事業であり、感染拡大の観点により、村山市の担当スタッフと協議の上、中止を決定しました。

姉妹都市中学生等国際交流事業は、感染拡大の観点により中止としました。

毎年1月5日に行われる厚岸町成人式は、感染対策を万全に行い、人場制限、時間短縮、マスク着用、消毒、ソーシャルディスタンスなどを徹底し開催しました。そんな中でも、何か記念になる思い出しとして、ローカルフードである「ねじりパンと牛乳」をセットにした『地元ミニ給食』を参加者全員にプレゼントし、大変喜ばれました。

生涯学習環境の充実については、「生きがい大学」の対象が高齢者であるため、感染リスクが高いこともあり、少人数に分けて開催し、豊かな人間関係を培い生きがいのある人生を送ることの目的は達成できました。生涯学習講座は、全8回で行われる「英会話教室」と10種類の体験講座を実施し、町民の豊かな生活の向上に寄与することができました。

芸術・文化の振興については、保育所や幼稚園を対象とした人形劇鑑賞は児童が一堂に集まり感染リスクを回避できないため、情報館を会場に変更し、町民を対象に開催しました。小中学生を対象とした芸術鑑賞事業は感染リスクが大変高いため、中止としました。厚岸町民文化祭の芸能発表・作品展は、舞台上、舞台裏、会場などの感染対策を万全に実施し開催し、活動の成果を発表する場と鑑賞する場の提供ができました。

令和4年度の新たな試みとして町民文化祭作品展で人気があり、数年来、町民から個展の要望があった『ひまな人の作品展』を情報館において開催しました。作者の心温まる作品に癒やされ、出展者、鑑賞者、スタッフにとって有意義な事業となりました。

【海事記念館】

感染対策を講じながら、概ね予定された事業を実施することができました。事業の実施にあたり、学校授業に位置づけた「オーロラ映像上映会」を今年度も実施しました。

プラネタリウム番組の制作では、町内のボランティアの協力により四季に対応したコンテンツ4本を計画通り制作し、天文知識の普及を図ることができました。文化財については、今年度から造成地における栽培を開始しましたが、初年度ということもあり、思ったような生育は見られませんでした。4面それぞれの特徴は見られたことから、次年度も引き続き栽培を実施し、アケシソウの生育に最適な環境を導き出します。

アイヌ文化に関連する事業では、国のアイヌ政策推進交付金を活用し、昨年度実施したドローンを使った神岩地区のレーザースキャンの調査結果を基に、3D模

型（ジオラマ）を制作し、展示を行いました。
埋蔵文化財包蔵地の踏査及び試掘調査については、国立アイヌ民族博物館と共同で、筑紫恋第一チャシ跡の調査を実施したところですが、次年度以降も継続して調査を行う予定です。

【情報館】

第3次厚岸町子ども読書活動推進計画が2年目をむかえ、子ども読書活動推進事業として、読み聞かせ・ブックトークを真龍小学校の児童に学校司書・読み聞かせボランティアサークル「ちいさな絵本箱」の協力のものと、感染対策を講じながら読書意欲を喚起する取組を行い、厚岸小学校は学校司書が担当し、太田小学校については学校と調整が図れず未実施となりました。ブックスタートについては、あみかを会場として保護者と赤ちゃんに絵本を開く時間の喜びや読書の大切さなどを伝え、本に親しむきっかけとなる機会の提供に努めました。絵本の読み聞かせについては、乳幼児に対して、保健福祉課との連携のもと、保健福祉総合センターあみか21や子育て支援センター、保育所などで実施し、読書習慣の素地づくりに努めました。

また、高齢者へのサービスとして、社会福祉協議会や生涯学習係、介護老人保健施設と連携し、事業を実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策から、社会福祉協議会との事業の連携はなく、生涯学習係の事業である「生きがい大学」に参加し、介護老人保健施設「ここみ」では資料の貸出しのみを実施しました。

移動図書館サービスについては、26ステーションを図書館バスで巡回し、必要に応じてステーションや巡回コースを見直し、地域文庫を設けるなど、地域の学びの拠点づくりに努めました。

パソコン講座では、高校生・中学生を対象とした夏休み・冬休みパソコン講座を実施しましたが、高校生は参加がなかったことから中止としました。また、パソコン講座は感染症対策として定員8名のところ半数程度で行ないました。

作品等の展示や大人向けの名作鑑賞会では、2階ギャラリーにカフェスペースを設けて開催し、映画上映ではカフェスペースの飲み物を視聴覚室に持ち込み可能としたところ、「映画館らしい」との声があり大変喜ばれました。また、映画の上映前や後に歓談する姿もありました。町民の方が芸術に触れる場の提供を継続的に開催し、人の集まる拠点づくりに努めてまいります。

今後も、情報館本館、分館、図書館バスによる全域サービスによる更なる拡充に努め、町民の読書環境を整備し、「いつでも だれでも」が読書に親しめる交流の場として、図書館サービスの充実に取り組めます。

第3 スポーツ課所管事項
重点1 「健康や体力の保持増進」

- スポーツ障害予防講演会
 - パークゴルフ教室
 - 第69回 厚岸町ソフトボール大会
 - 第24回 町民パークゴルフ大会
 - 第47回厚岸町教育長青少年野球大会
- ・ 4月24日実施 スポーツ障害の要因や事例を通じて、適切な運動や指導法を学び、障害を未然に防止することを目的に開催。
- ・ 5月22日実施 パークゴルフの普及と町民の健康と体力づくりを目的に開催した。2名参加。
- ・ 5月29日実施 職場等で構成した7チームが参加した。上位3チームの表彰に加え、個人賞(MVP)賞を設け、選手の奮起を促した。94名参加。
- ・ 6月26日実施 パークゴルフの普及と活性化並びに町民の健康増進を図るために開催した。また、参加賞の充実や産団体からの景品の提供を受け、例年以上の参加者評価を得ることができた。51名参加。
- ・ 7月31日実施 少年野球を通じて、運動能力の向上と心身の健全な育成や参加選手相互の親睦を図ることを目的として開催した。4チーム150名参加。

- カヌー教室
- 第26回 町民フミアミリーマラソン大会
- 第37回道新杯兼第35回厚岸町ミニバスケットボール大会
- 第9回厚岸町スポーツ協会長杯少年少女フットサル大会
- 親子スケート教室
- スノーシューウォーキング教室
- 海洋スポーツ体験事業
- 年代別・泳法別水泳教室
- 着衣泳教室
- 泳力検定会
- ウエイトトレトレーニング講習会
- スポーツバスによる少年団送迎
- スポーツ振興助成
- 第6回タンチョウリーグin厚岸
- 厚岸町スポーツ協会
- 厚岸町スポーツ少年団本部

- ・ 8月21日実施 カナディアンカヌーの技術や知識を学び親水性を培い、海洋性スポーツの普及振興を図ることを目的に開催した。1名参加。
- ・ 10月9日実施 コースを宮園公園内に設定し、1.5km、3.0km、4.0kmを参加者自身が選択し、走ることに楽しさ、参加者相互の親睦及び交流を図ることを目的に開催した。71名参加。
- ・ 11月20日実施 ミニバスケットボールを通じて体力や技術の向上及び選手相互の親睦、交流を目的に開催。37名参加。
- ・ 12月4日実施 フットサル競技の普及と選手相互の親睦及び交流を図ることを目的に開催した。58名参加。
- ・ 1月15日実施 小学生以下の児童または幼児でスケート靴で立つことや歩くことができないうち子どもを対象に技術習得と親子のふれあいを目的に開催した。1家族2名参加。
- ・ 1月29日実施 高齢者から若年層の冬期間の運動不足解消を目的に開催した。5名参加。
- ・ 指導員不足により今年度は中止とした。
- ・ 幼児から小中学生及び大人までを対象とした、年代別・泳法別水泳教室を実施し、水泳を通じた町民の健康増進と施設の利用促進を図った。
- ・ 9月14日、9月21日、10月4日実施 防災教育の一環として、太田・真龍・厚岸小学校の児童を対象に、温水プールを活用した水辺の安全教室を実施し、水難に対する対応について指導を行った。87名参加。
- ・ (公財)日本水泳連盟が定めた全国統一の泳力基準によって行われる水泳能力検定を実施した。7名参加(10検定)。
- ・ 各種トレトレーニング機器を活用した体力づくりの一環として、機器の使用方法や適切な運動方法について講習を行い、施設の利用促進を図った。11回開催 13名新規受講。
- ・ 少年団活動の活性化を図るため、練習に参加する団員をバスで送迎し、安心して少年団に加入できる環境を整えた。使用申請者3,700名。
- ・ 全道大会・全国大会に出場した町内の競技選手を対象に、大会参加経費の一部(交通費及び宿泊費)を支援し、負担軽減と競技への意欲向上を図った。14件の申請に対し1,060千円を補助した。
- ・ 高い競技レベルを間近で観ることでスポーツ意欲の向上と普及を図ることを目的に合宿の誘致を行い、令和4年度はソフトバンクホークス3軍ほか4チームが宮園公園野球場を利用した。各チーム、観戦者を含め300名の参加があった。
- ・ 事務局として各種事業への協力支援を行った。 加盟団体9団体 補助金664,000円
- ・ 事務局として各種事業への協力支援を行った。 加盟団体8団体 補助金245,359円

重点2「スポーツの振興」

<p>重点3 「施設の整備と有効活用」</p>	<p>○多目的屋内スポーツ施設整備事業 ○多目的屋内スポーツ施設備品整備事業</p>	<p>・多目的屋内スポーツ施設建築工事 事業費116,597,800円 ・備品購入一式 事業費1,882,485円</p>
<p>■自己評価</p> <p>スポーツに親しむ機会の拡充では、コロナ禍において緊急事態宣言が発出されるなど各種大会について開催の判断が難しいところもありましたが、感染対策の徹底及び開催時期の調整を行い、ソフトボール大会をはじめ、例年どおり各種大会や教室を開催することができました。今後の課題としては、各種目とも競技人口と参加人数の減少がありますが、さらなるPRを行いながらスポーツの振興を図ってまいります。</p> <p>研修機会の充実では、昨年度同様中止としましたが、スポーツ障害予防に関する講演会は今後とも継続して実施していく必要があります。</p> <p>学校教育との連携では、小学校が防災教育の一環として実施している着衣泳について、スポーツ係・温水プール指導員による指導を行い、防災意識の向上を図ることができました。</p> <p>各種スポーツ団体との連携では、厚岸町スポーツ協会並びに厚岸町スポーツ少年団本部の事務局をスポーツ係が担うことにより、組織活動への支援を継続して実施しました。スポーツ少年団においては、今年度はスポーツバスの運行と各団体への支援を継続し、町全体のスポーツ振興に努めてまいります。</p> <p>海洋スポーツの推進では、海洋センター艇庫を核とした海の町ならではの海洋スポーツの振興にあたり、カヌーやヨットを活用しながら、海に親しみ自然の恵みを楽しみながら楽しくスポーツを行う環境の構築に努めました。</p> <p>温水プールの利用促進では、年代別・泳法別水泳教室を開催し、水泳を通じた健康づくりと水泳人口の拡大を図り、生涯スポーツの普及に努めました。</p> <p>社会体育施設の充実では、大規模施設であるパークゴルフ場の維持管理について、厚岸町高齢者事業団に業務委託し、適正な芝の育成管理や快適な施設環境の保持に努めました。今後とも施設の維持補修等について、計画的に取り進めてまいります。</p>		